[illegible]諸國物語

柴久文庫

へ13
3030
1

天保五年甲午春新彫

柳亭種彦作

歌川國貞画

邯鄲諸國物語

近江の巻

前帙上

芳町角 山本平吉梓

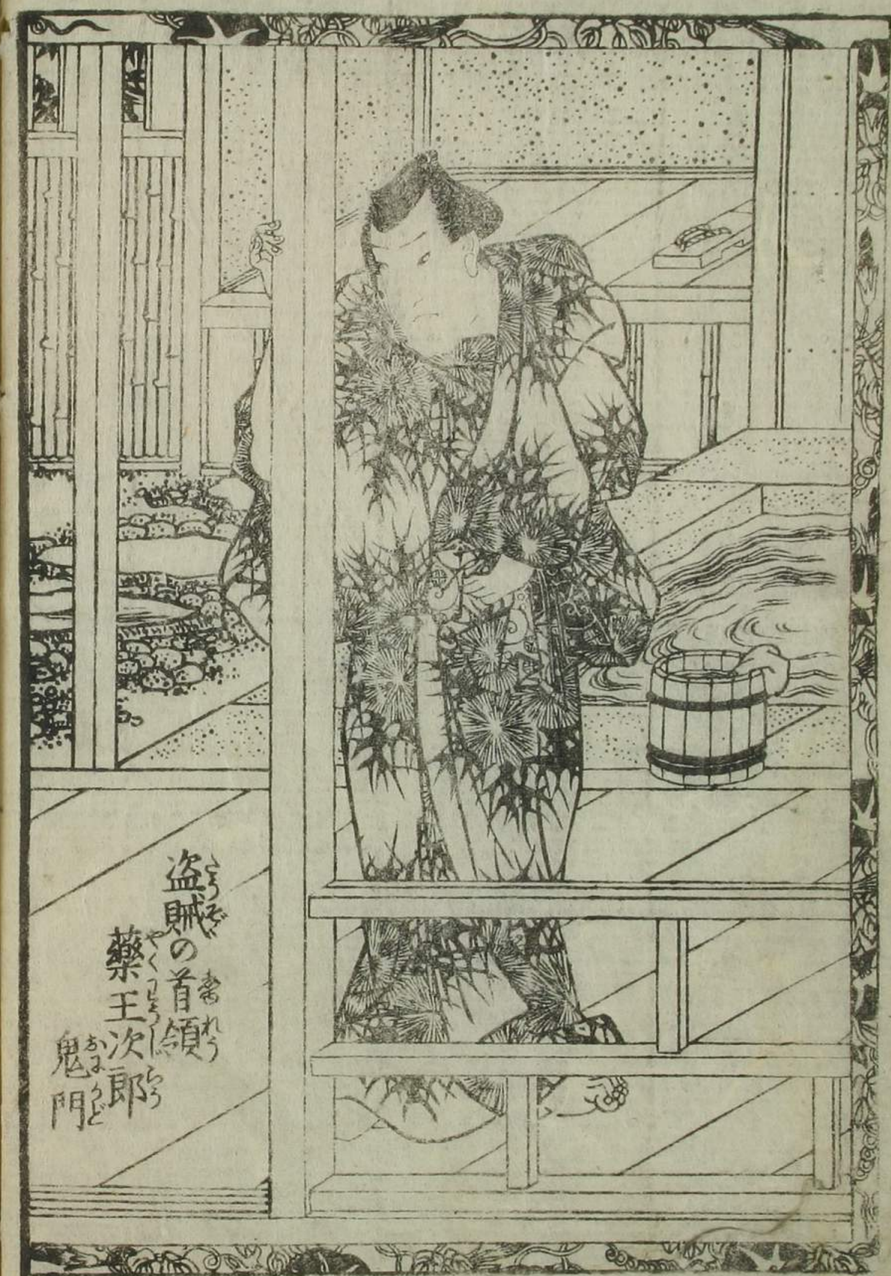
ヘ13 3030

是繪冊子ハ西鶴諸國ばなし 一名大下馬 其蹟諸國物語[illegible]ひて作り
いでしなれバ種彦諸國物語とよびるさんと思ひしが[illegible]名を[illegible]題
ふあらたさんも徑廷く取ところ無實無夢物語といふ意ふて郡[illegible]の
二字ふ替つ双手說いづる近江の巻ハ狂賦箪築と吹の話ふて耳食録
ふ事ふりふてつまど更ふそれを翻へし善人ふあやまちなく懸想
ぢちハ夫婦とあり最愛たき草紙ふて是ふ出羽の巻を附前帙
後帙八冊ふて二箇國の話全く終きエ

天保五年甲午開端

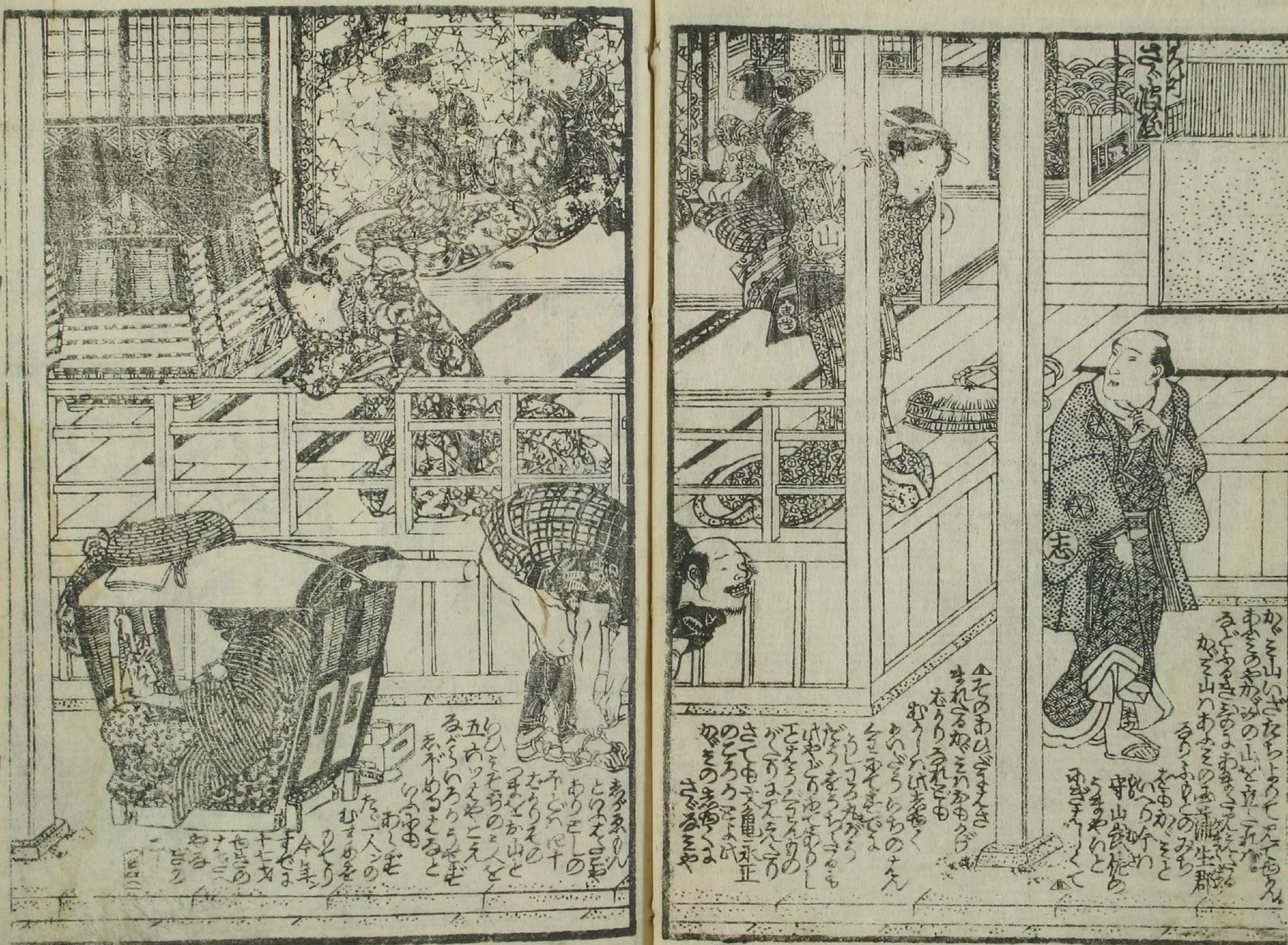
柳亭種彦

近江の国
鏡の宿
旅舎の娘阿加奈


盗賊の首領
藥王次郎
鬼門

青崎蔵人の一子
武者や五郎景信
美艶仙女香
黒油美玄香
他家無比類
京橋南一町
十字街
坂本氏精製

近江の圖
八幡の町
晒布問屋
花や屋の
一子鯉七
鏡の病
小紋波屋の
傀儡女
阿只


かゞミ山
蒲生郡
守山
そのおりしもかゞミ山
さても
たゞ一人の
むすめを
今年
十七才

「つぎ」くれがあのやうなくらべてハ [illegible]

[illegible]

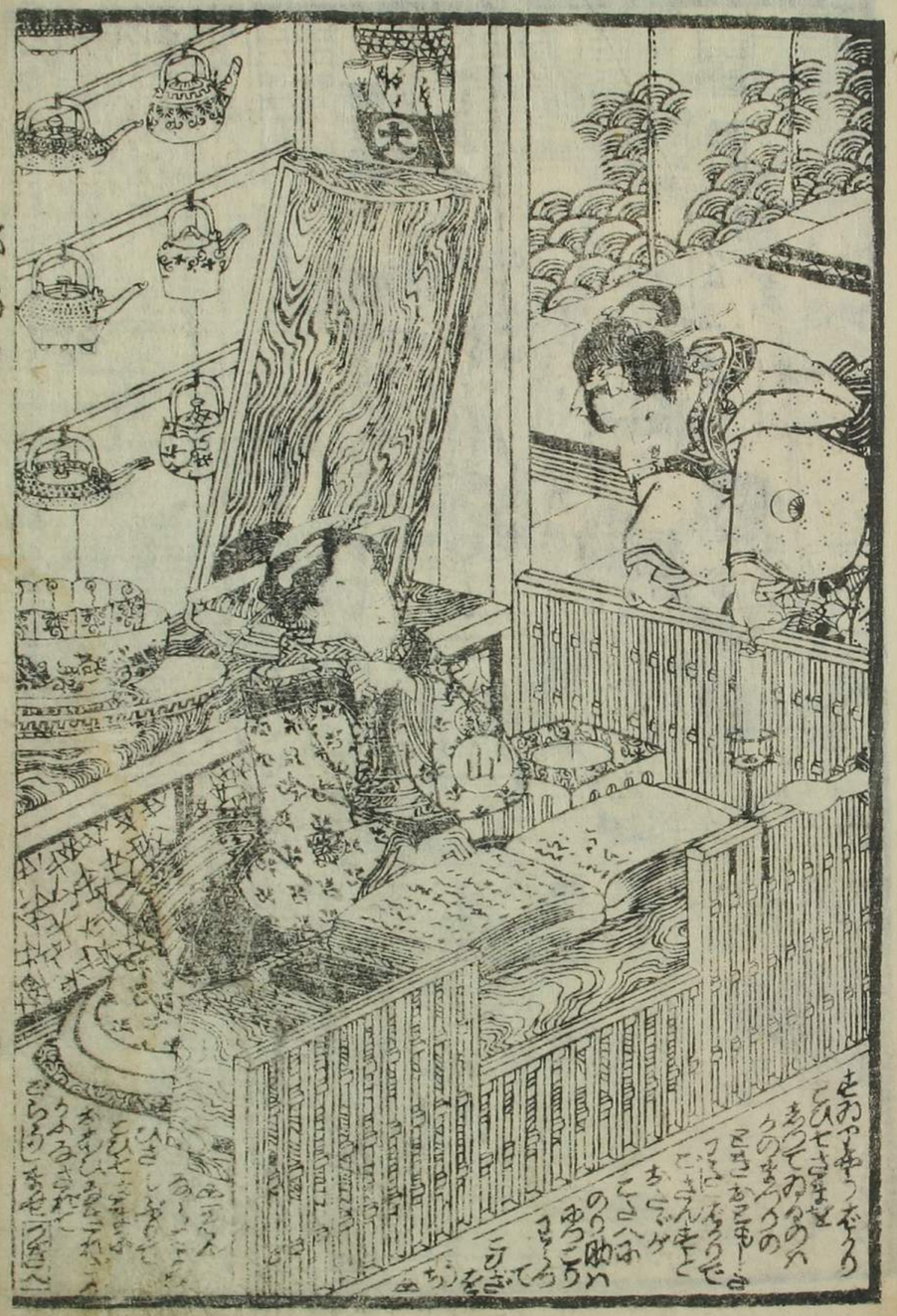
「左あ」[illegible]

[illegible]

鯉

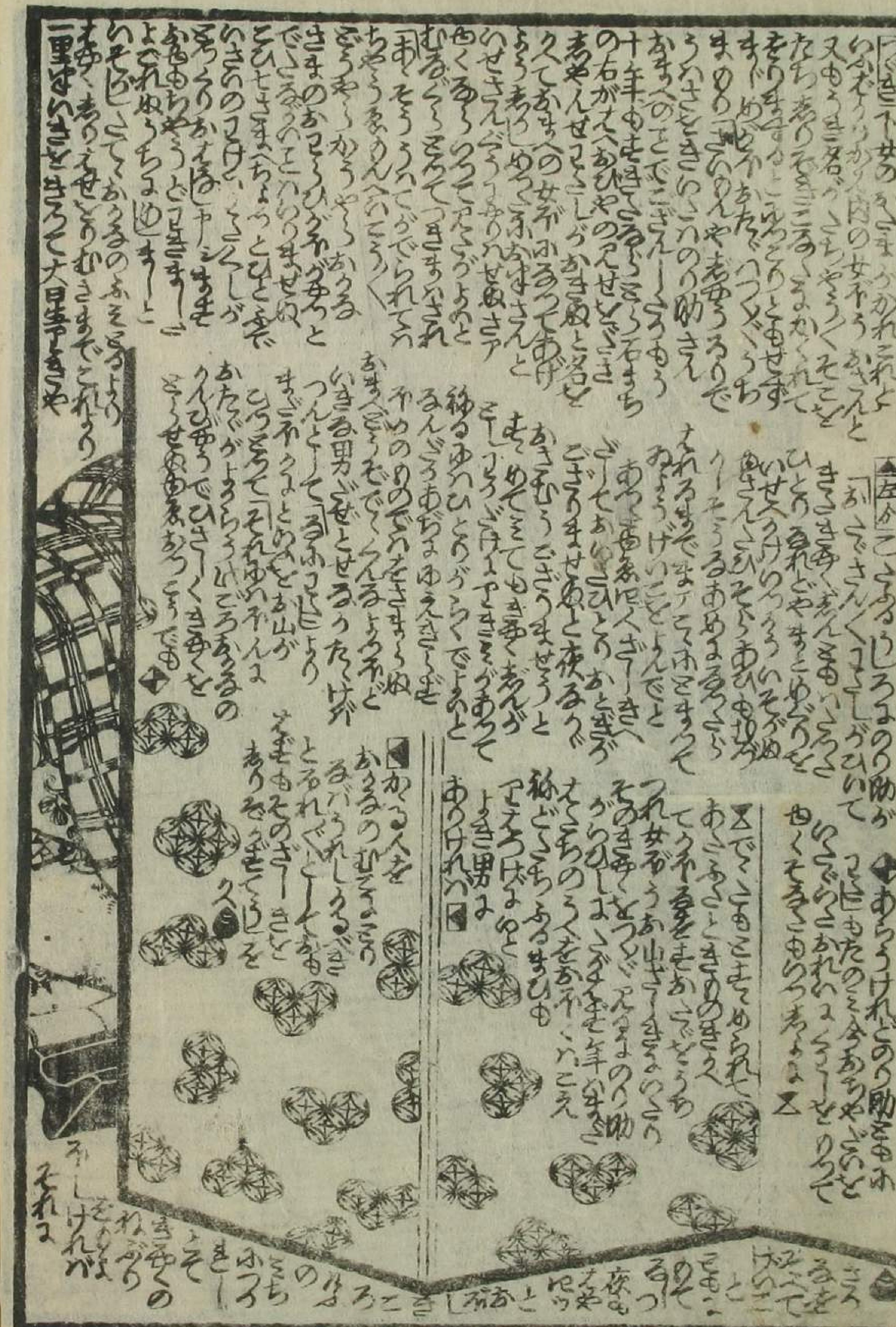
御祭禮
比牟礼

粘


山

山

鯉



「つゞき」下女のおこまがかれこれよ
いかぞりかり内の女ぼうおきえと
又もう一名がぶちやうくそこそ
たちあがりそぎいてゐまおかくれて
ありますとこれをとりとゞもせず
まづめでたいかたでつくぐうち
うれしさときのごれのの助さえ
おまへのおでてござんしくろもう
十年もむかしてとふらうきちまち

邯鄲諸國物語

香蝶楼画

近江の巻 前帙 下

栄久文庫

國貞画 種彦作

[illegible]

種彦作

國貞画

邯鄲
諸國
ものがたり
近江の巻
前帙下
榮久堂梓

お山も
かどまで
おくりのぞ
のびあがりく
「おまへ
さーづを
さまやん〜して
それへよつて
ござさんせるぞ
さうのあうは
まつせこそ
たれもゆびの
こゝ一それるい
のり物
おくよさいいハ
あるまいが
まおぶん
そもふきさを
つけてとよぞ
かるこゑも
さぞ〜かせまさ
おげらかなち
久々やんお
此子ハふきえいで
つれそるい
縦ざつのつるき
よまこひきつけそ
空のまでうとめひつ
身をとみり
うちまのり

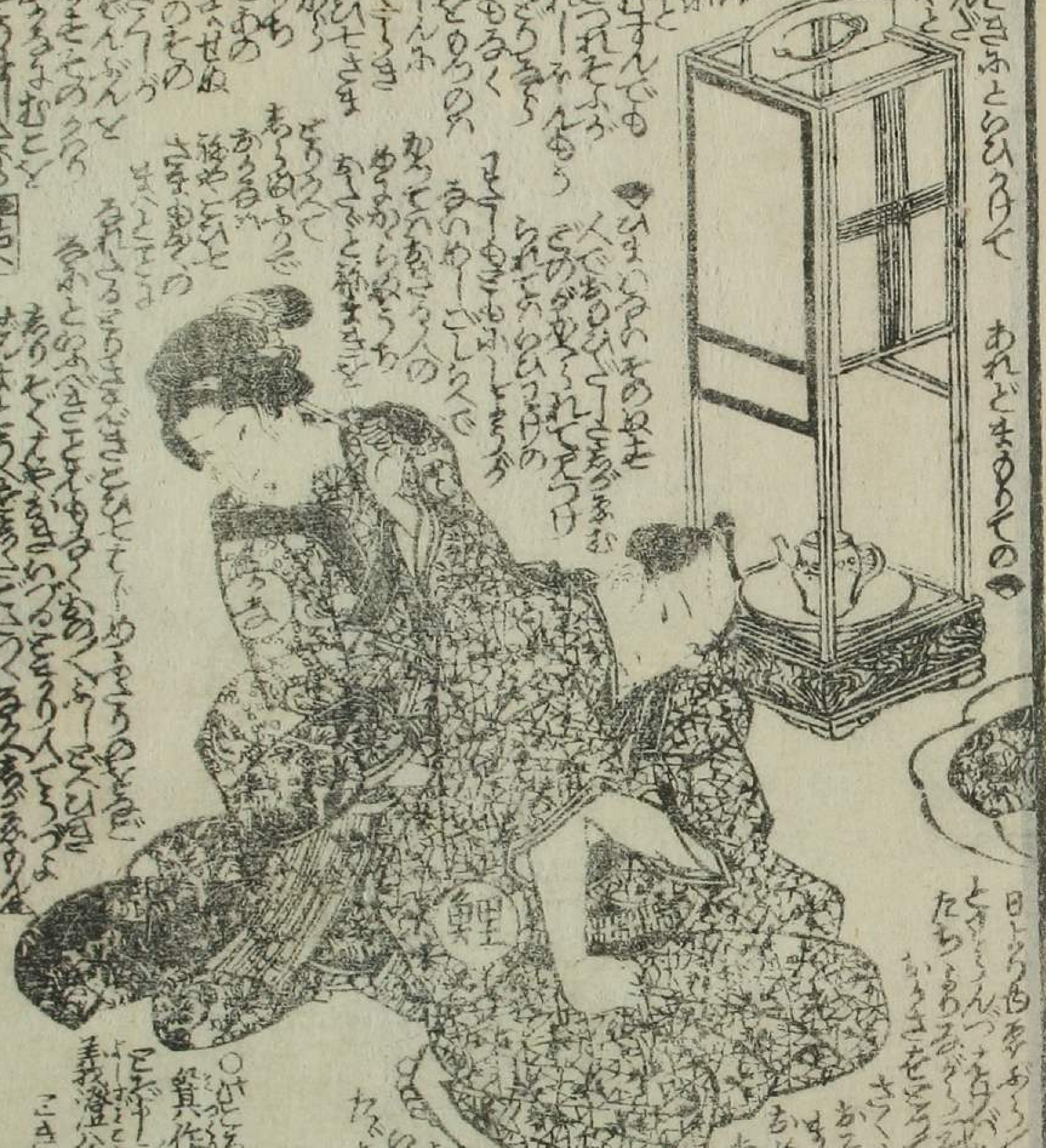
〽ひまアふさらくこてまぬる
そーてするをさいちくの
いとでむすんでこんなゑ入ゑうが
つるのとていちぞもしやうくさ
とれるーづてんの西りぬとひき
まくりかえさーのぞいてあきれえて。
かたぐくとよひさまされ
びつくりまびあきうろく
と二つのおうそさえ
つるこしいてうづぶ
りつくりがけつの
まずびをのて
まさおきやくがさぞ
かーえらうてくと
ゆげらぐこまと
ぞむる
お山

〽なづさこゑかぐらかう〜あ
たはそくあやうじ
そこ子ハひのハ
おつまづらやなねゐ
えいでれコろうぬ
こてへおちや
それとこもおあやまさ
やりまりこまでびひ
やうの工をを
きくゆれ
かよだぬ
なんで
縦まきをを
見りゆんて
きてぬある
のうきア
どうぢやと
こまれてを
きえもの
たきおもひ
いつへも流とこ
なさぶかに
人そしるなれが
あをのつき
かうまをさいて
みしこひそが
むねどきごめく
はやっと
もれて

つぎへ

（つゞき）むぢやうの風にふきちらされ
とう／＼かへらぬ人となり それとともお
さうなつてはせんかたなく子まりも
あやがいんぐをわおやとぜんの人の
まうしてくださいのやうすをきく
あくるゞそぶりがてんが四ツ頃と
あのふうふ人はあやまられ
むすめのおろぶんあら
おてんぶびやうきそれで
まかぶりもきたらもやめて
あたまをつれてぶらく
かへつてもおさまれるとある
さうぞんもやぶれて
まア二三年 こてのうち
あげてそ おく きなる
つりのせいなの御もひ
くらてたの ―――
あかえのあつて
くわらのきの
やうるれど今で
ともおのやうに
まじめなふ ――て
おらるれどマつの
ときのおふむどのも
おまよさんのおいの男
まさしいや ――まちやうとう ――と

あれどまありその
あてそのときふとひろげて
あれはちやんと
むすめが
ひろく
ちまうりの
かるせ
ぶれてまちかせ
女と男とつれ
せたいの
よそのか
女がおの
ゆら
ふと
ひま
あつて
おそて



（つゞきへ）

音川政元
薬王次郎鬼門
医者の子
石倉尉右衛門久兼
一子
尉之助久秋

近江志賀の郡飯室より
平尾
青崎蔵人景則
景則一子
武者五郎景信
四天王

〔つゞき〕

[illegible]

をつくりえん[illegible]
せうこの橋へ[illegible]

[illegible]

石倉[illegible]

[illegible]

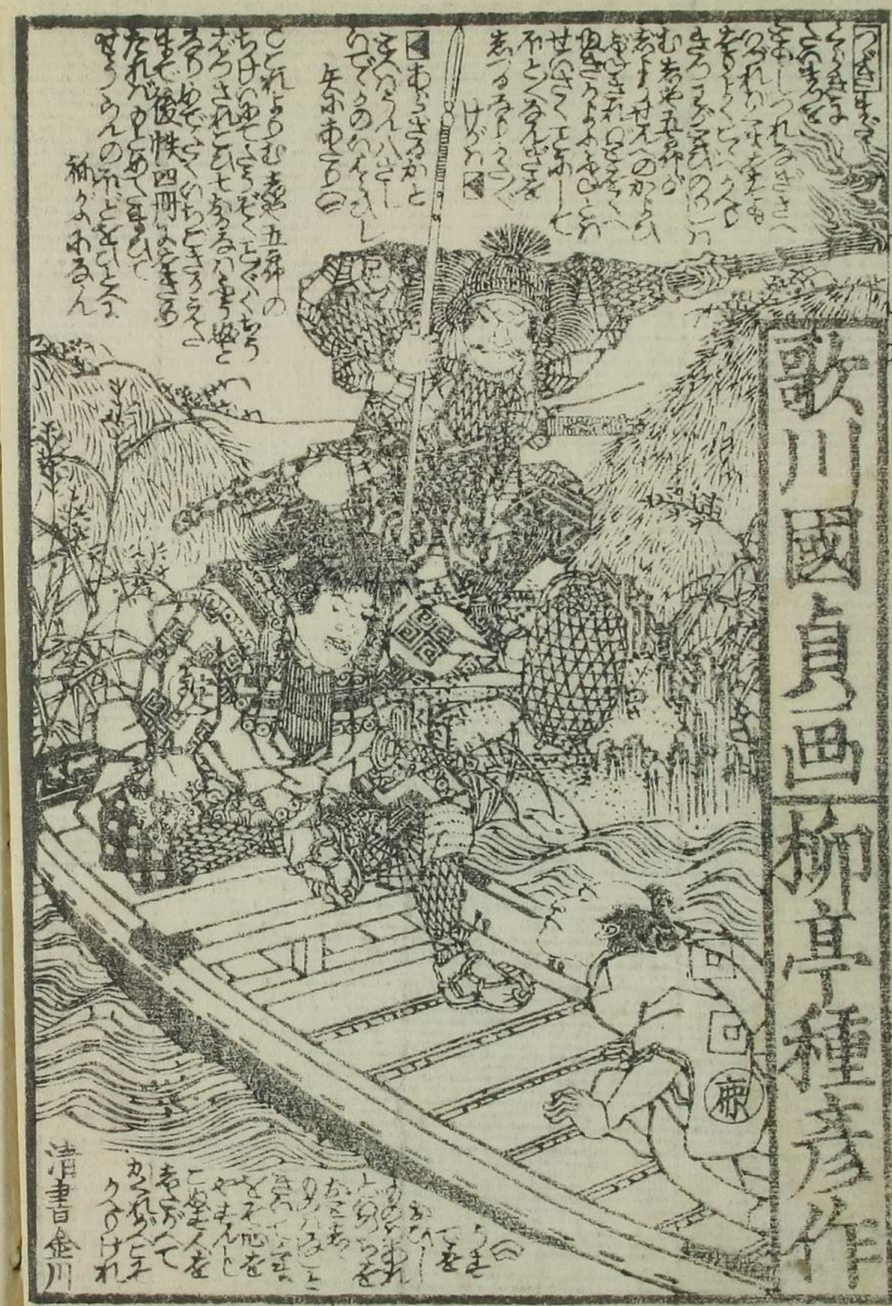
[illegible]

〔右へ〕

[illegible]

〔左へ〕

[illegible]



栄久堂梓行新舊稗史目録

増補忠臣蔵　全六冊　晋米齋玉粒編　一陽齋前豊國画

繪本千年山　全拾冊　北尾重政画

繪本武者鑑　全四冊　十返舍一九作　香蝶樓國貞画

花軍春錦繪　前篇八冊　後篇四冊　十返舍一九作　香蝶樓國貞画

昔舊在多土佐　全四冊　宝田千町選　歌川國芳画

江戸十町親仁橋角　山本平吉販

種彦諸國物語

近江の巻後帙上

香蝶楼画

天保甲午孟春發市

邯鄲諸國物語

近江巻 後帙上

柳亭種彦作

歌川國貞画

東都芳町角 榮久堂製本

前帙四冊よりあの後帙と次て近江出羽二ヶ國の物語全とする

附言

前帙發販して後表紙に既に種彦が諸國物語と記しるすは是書房のさしる故に勿為と制したれば榮久堂笑って曰隨筆漫画画譜は更なり赤本やまた家の化物十六利勘をもしめさしよるは暗記せざれどもあの物のいくらもあり近年は雙六にも画人の名を題しるは秋原來童子の玩弄の寫真のよろづ賣ものとは答て更に改めるは其ゆゑ八百の菖蒲の彫るての後されば意中に恥て耳も歯端近江の巻よりて出羽の國となりしとの短き語を附す是近江の物語のつぎにてかなぞ自ら縁由あり

天保五年甲午春　柳亭種彦記

小ゝ波屋の
阿只石燈籠の笠を
もちて初て朋よ
力ある
ことを
知る

阿只の
客
外原屋
倉蔵

白波
林兄

（つゞき）

國貞画

種彦作

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文十抄
首書 繪抄

源氏五十四帖
極彩色 小錦繪

右ハ源氏物かたり五十四帖をことごとく繪をそれぞれ歌を附して極彩色にすりこれハ源氏物語の本まへ古今上品の繪なり源氏の絵入てうほう

但五十四帖揃 たゝう入 はこ入

御誂染逢山鹿子
六編揃

縁結妹脊双

東都錦繪所

江戸よし町おやぢ橋角
山本平吉梓

天保五年
甲午發春

種彦読園拾遺

國貞画

近江

附

の巻

[illegible]

[illegible]

種彦作

國貞画

かんたん諸国
ものがたり

近江乃巻 後帙下

附 出羽の巻

榮久堂梓

鬼

出羽の国の物がたりあふぎこぼ

近江の国の物がたりあふぎとぢる

[illegible]

柳亭種彦作

歌川國貞画

[illegible]

淨書 千形道友

弘化五年戊申春新版稗史目録

邯鄲諸國物語　初編ゟ八編迄出来　九編十編新刻　柳亭種彦作　一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃　十編　新刻　山東庵京山作　一陽齋豊國画

朧月猫のさうし　六編　七編　山東庵京山作　一勇齋國芳画

茶のみとの艸紙　初編　二編　新刻　山東庵京山作　一陽齋豊國画

仙女香七變化粧　二編　十返舎後一九作　一陽齋豊國画

竹女一代記　四編　玉蘭齋作　哥川貞秀画

隅田川月姿見　二編　式亭小三馬作　一陽齋豊國画

美艶仙女香　一包四十八銅　京橋南傳馬町三丁目
黒油美玄香　坂本氏製

榮久堂
江戸芳町親仁橋角
山本平吉版

歌川國貞画

天保六年
乙未孟陽

種彦諸國物語

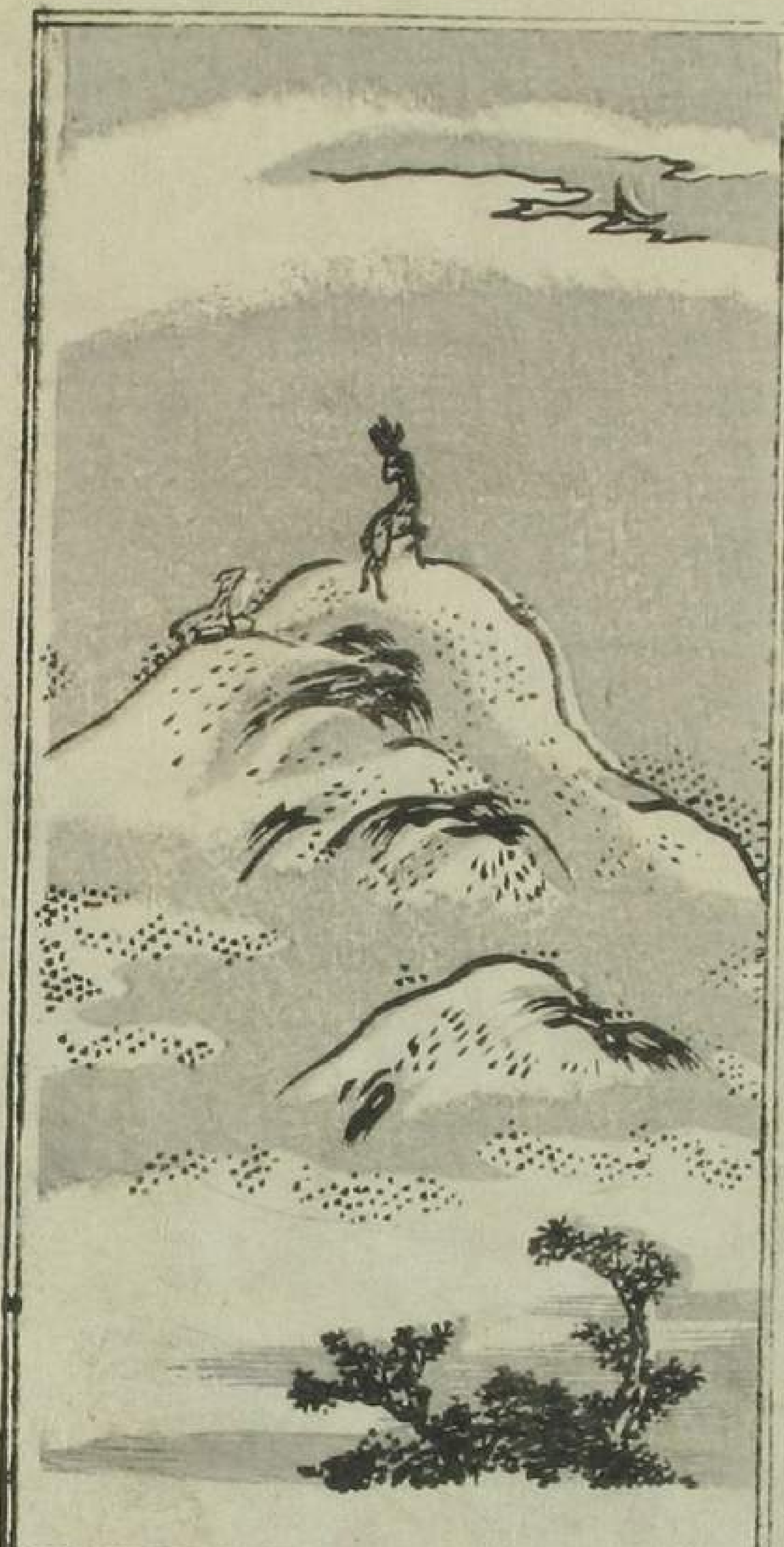
大和の巻
前帙上

天保六年乙未孟春發行

邯鄲諸國物語

大和の巻
前帙上冊

柳亭種彦作
歌川國貞画



よし町
親仁橋
榮久堂
山本
平吉梓

邯鄲諸國物語大和巻前帙

忠臣不事二君。貞女不更二夫とハ誰しも知る史記田單附傳王蠋が詞なり是巻ハ鐘三郎が二君ニ事て災禍其身を亡し小篠が二夫を更て苦辛する談柄ニて巣林子二万翁の冊子より出されども悪を記し善戒を垂ことを旨趣として事實の如く編りしが浄瑠璃かぶきに准へし繪ざうしよりハ殊更興ある繪様も又花美なる程ど竹馬芥雛ニかへて童子の翫弄とおもわず勧善の端ともあらん歟

天保六年乙未發春　柳亭種彦

旅の女小篠のちに鍾三の後妻
茂山鍾三郎的具
後落窪鍾三

鍾三郎の亡妻小佐美夫の夢にきたりて會を
現載三千里
神交八百秋

難波新町の
娼家
玉柏屋の娘
於谷

鍾二郎の一子
落窪
京太郎
醫者
天原
流波

一有画

一有画

（つゞき）わそびわかりてさいそい ふうもうさうくきうるまず ゆるくとおもむかしあと どーつぎあまのどころゆく どうがやうりとこあのしく きこえけれどさわぐがとて ゆきくーうちうちうるので わらうなり [illegible]

赤白の長福寺 [illegible] 五代八幡鉢が峯の [illegible] 和泉より [illegible] 河合寺三日市 [illegible] 天野山 清水岩 [illegible] 本の目峠 [illegible]

下へつゞく

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首[illegible]抄

首書 絵抄

源氏五十四帖

極彩色 小錦絵

右ハ源氏物がたり五十四帖を [illegible]

但五十四枚揃 たゞし入 はお入

御誂染逢山鹿子

六編揃

縁結妹脊双六

[illegible]

東都錦繪所

江戸よし町おやぢ橋角 山本平吉梓

種彦諺國物語

大和の巻前帙下

香蝶楼画

榮久文庫

事の近江の巻に發端まで どうぞあの編を御覧遊されんでも大和の國へをさまりての一條の物語ハわかる中なり

かんたむ諸國ものがたり

種彦作

國貞画

大和の巻 前帙 下冊

榮久堂 梓行

上の巻つゞき [illegible]

[illegible]

右かめ山道

○さるほどに京にある物の助がかくすくうちの
女子ふたりにうまれしはまゐりのおちかゆへ
またより一子あり その日まゐるべきの人をうかがひ
わかれが小ざくもつかまくかごにて
あくられきさり一ぢやくよりちやうやうより その
おかをすやよおひ よせてあかせなくとこのめがけゆもと
人にをとひ小ざくのよこれふくつまみすてびあそくめんの工をのこ
やまと町へいひかりなれが
とくべきなう家へ
むかしよりあんまり
ありし由を聞きておよ
ふらくあんゆて
三布がみのあんと
あきうをつけて
おきてようとひらさ
おそく人のこゝろの
あんあんせぬこそ
かなひるんなど
そして京ちらと
みのちちるる
まるそぎの家
あづておくりつゝ
ちりふりかざてハまり
よくかりまみてくるて
まりくるふくちちらの
手代のさてそれとと目にてひまりくと
あよう二十よそまきひとなかられておもてを
あやをさずあようこ二八さらぬ者の中で
へどとふゝやおくりとかへ一京た布を
小ざくみあそをうくりしのちのうゑぢちもそのまず

一つひまうへとそりつくのとの男おくとまらの
むめのぬとまけしが小ざくかなるをわけてあうしあの
るをのあちをかをつけていさやうれがれれも又
あんぢの母のでてまうまくのしまべてうちわむつまで
やすのめぐもののせいあるとまちあらすのそくらじくり

後悔を
ことまかべし

浄書千形道友

國貞画 種彦作

邯鄲(かんたん)諸國物語(しよこくものがたり)
初編ヨリ八編迄出来 九編十編新刻
柳亭種彦作
一陽齋豊國画

菊寿童霞の盃(きくじゆどうかすみのさかづき)
十編 新刻
山東庵京山作
一陽齋豊國画

朧月猫のさうし(おぼろづきねこのさうし)
六編 七編
山東庵京山作
一勇齋國芳画

袖のみやとの艸紙
初編二編 新刻
山東庵京山作
一陽齋豊國画

仙女香七變化粧(せんぢよかうなゝへんげ)
二編
十返舎一九作
一陽齋豊國画

竹女一代記(たけおんないちだいき)
三五 四編
蘭齋作
哥川貞秀画

隅田川月姿貝(すみだがはつきのすがたみ)
式亭小三馬作
一陽齋豊國画

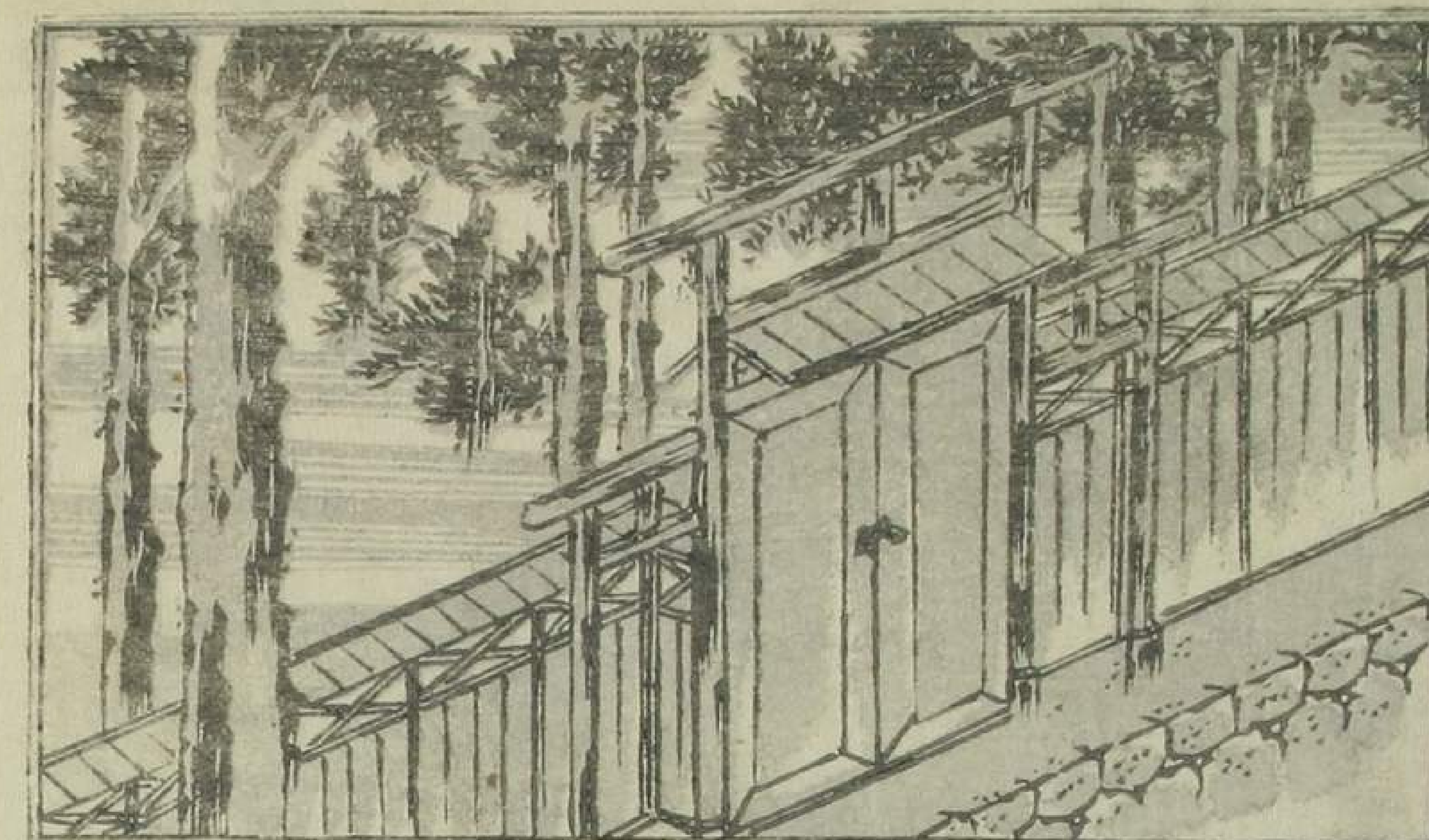
美艶仙女香 一包四十八銅づゝ
黒油美玄香
京橋南傳馬町三丁目 坂本氏製

榮久堂
江戸芳町親父橋角
山本平吉版

種類諸國物語

歌川國貞畫

天保八年丁酉發春



邯鄲諸國物語

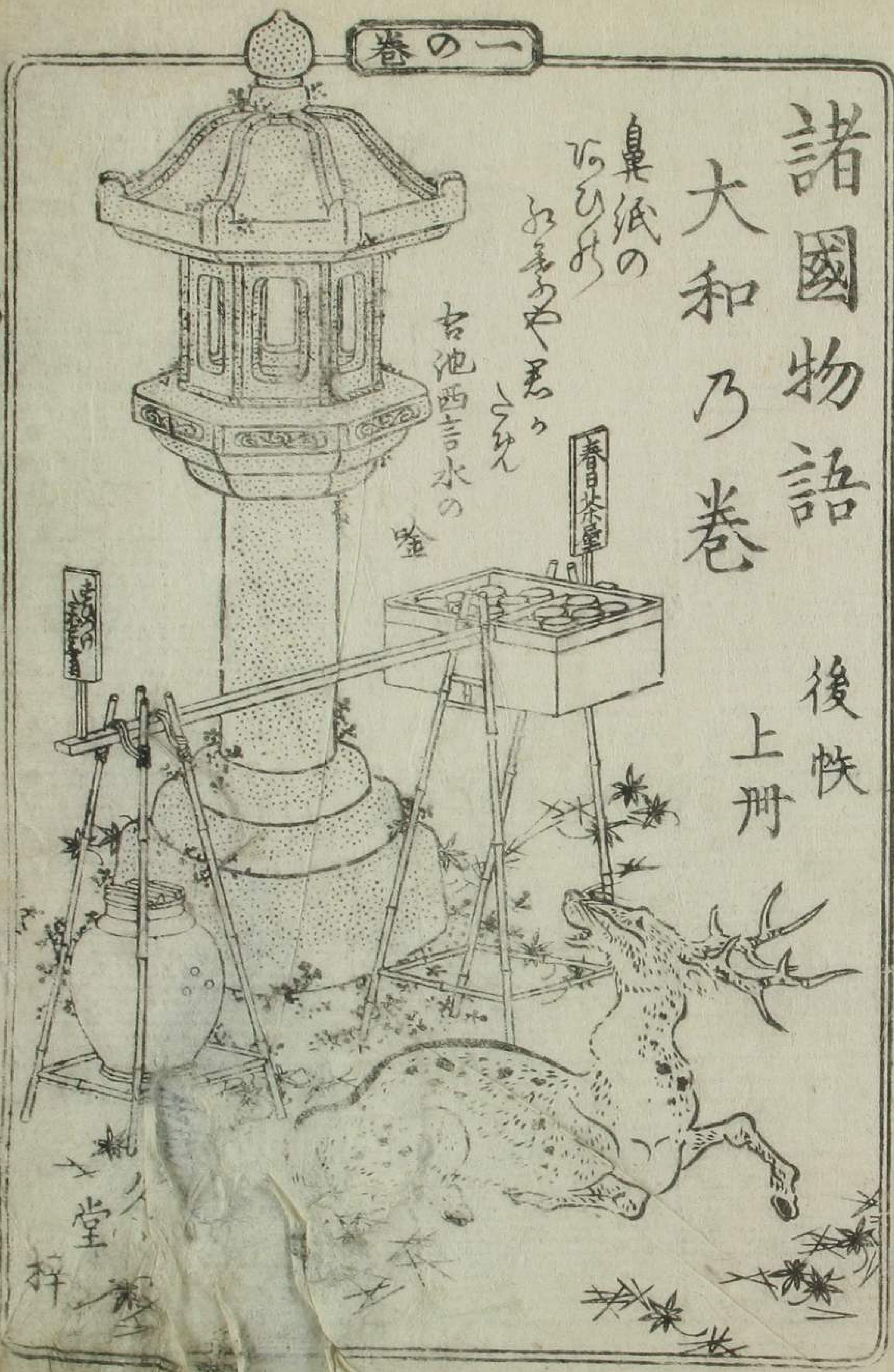
大和の巻 後帙上

柳亭種彦作

歌川國貞画

東都親仁橋

榮久堂製本



難波新町の娼家
玉柏屋
樓上の
圖

京

落窪 鍾三
同 京太郎

○官六郎の
草履
木偶西

○官六郎の
一子 綾七

木偶内蔵と奴上五人

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文字抄 首書 繪抄

源氏五十四帖 極彩色 小錦絵

但五十四枚揃

御誂染逢山鹿子 六編揃

縁結妹脊双六

東都錦繪所
江戸 町 橋
山本平吉梓

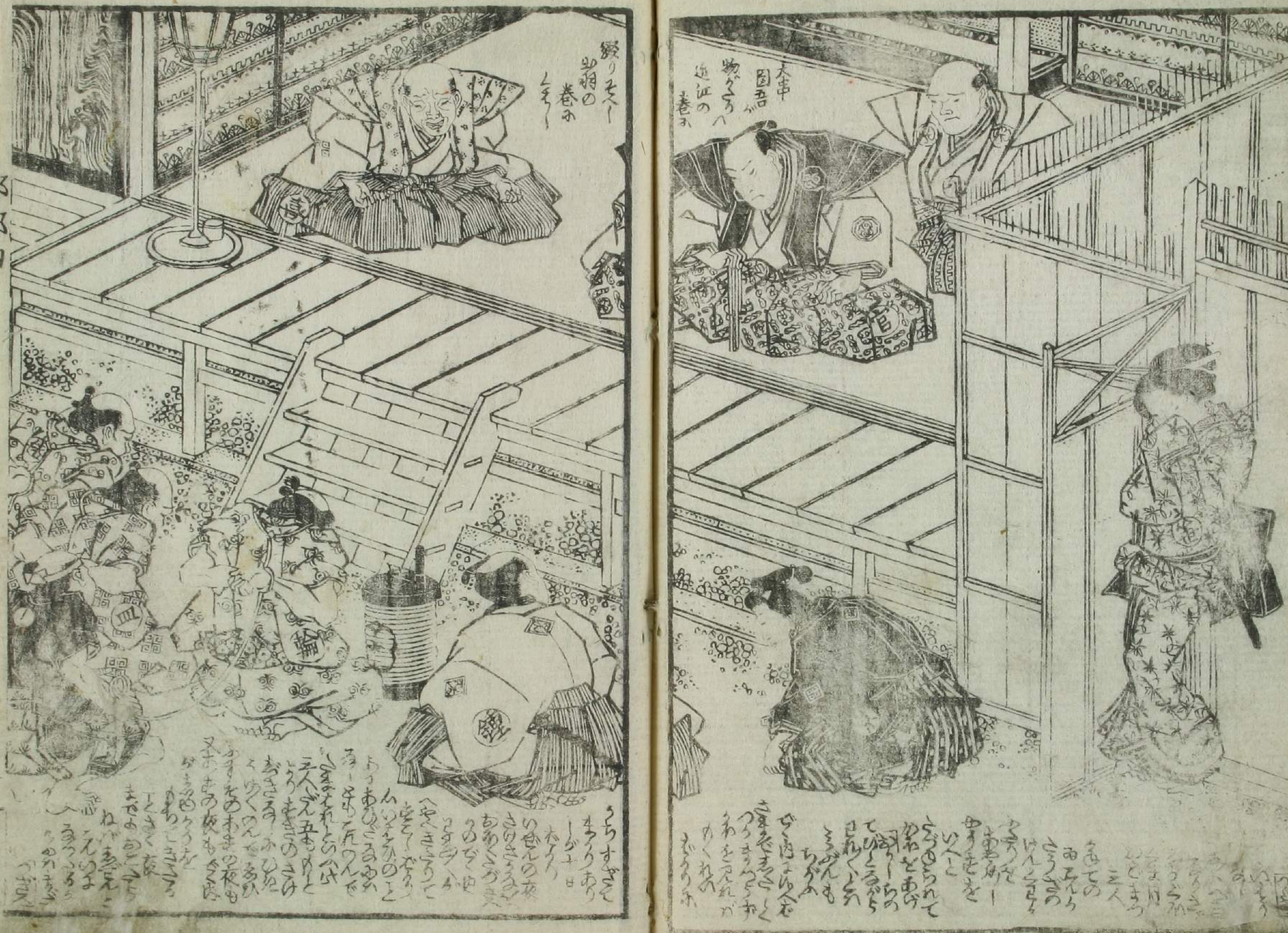
天保
丁酉春
發販
香蝶樓画
大和の

種彦作　國貞画

邯鄲しよこく物かたり

大和の巻
後帙下

山本平吉
壽梓

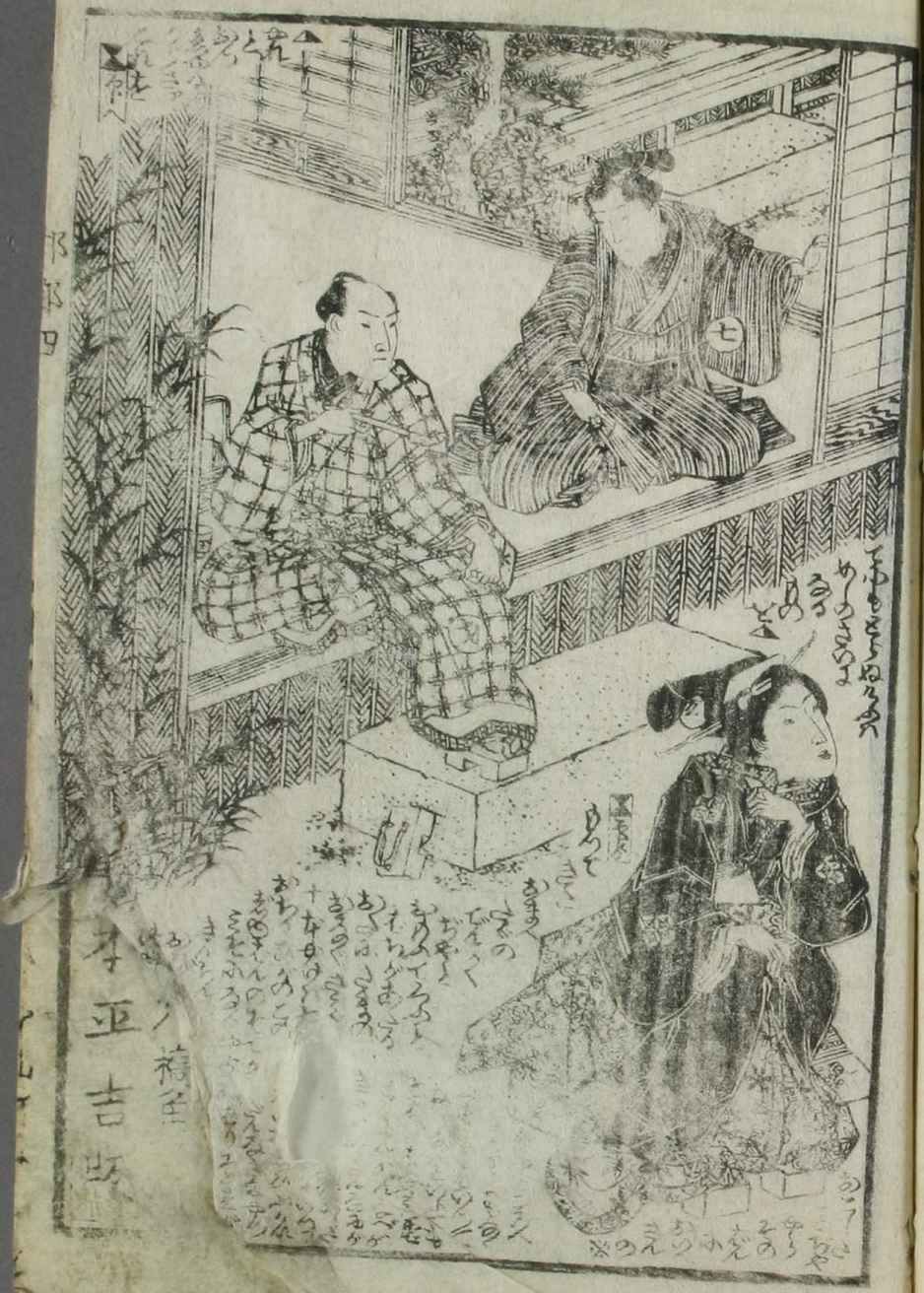

大串図書が物がたりへ近江の巻
綴りそへし出羽の巻

書状
入用

宮

宮寶前
高市 願主
雅妓 新町 柏木太夫
川柳 調
柳泉亭
本卯

八幡宮



弘化五年戊申春新版稗史目録

邯鄲諸國物語　初編ゟ八編迄出来　九編十編新刻　柳亭種彦作　一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃　十編新刻　山東庵京山作　一陽齋豊國画

朧月猫のさうし　六編七編　山東庵京山作　一勇齋國芳画

春のなごりの艸紙　初編二編新刻　山東庵京山作　一陽齋豊國画

仙女香七變化粧　二編　十返舎一九作　一陽齋豊國画

竹女一代記　三編四編　蘭齋作　哥川貞秀画

隅田川月姿見　式亭小三馬作　一陽齋画

美艶仙女香　一包四十八銅
黒油美玄香
坂本氏製

榮久堂
江戸芳町親仁橋角
山本平吉版